

きずな

豊かな高齢化社会の実現と社会貢献をめざして

Vol.013
2016.
1.15



13号の主な内容

新春対談	2
新理事長挨拶	3
企業訪問	4
食と農の科学館	5
女性たちの集い	6
ボランティア活動	7
ご案内	8

〈新春対談〉 〜輝くシルバーの年に〜

対談 市原健一市長・橋本憲明理事長

〈橋本理事長〉新年あけましておめで

とうございます。日頃から多大なご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。新時代を迎えるにあたり、つくば市シルバー人材センターに対して忌憚のないご意見をお伺い申し上げます。

まずご報告申し上げます。公益社団法人として、4期目の平成27年度、センターの重点目標は、財政基盤の強化、センターの基本理念の確認と意識の向上、会員の増強、事業拡大・就業の場の確保、広報活動の推進、安全対策です。

なかでも財政基盤の強化は、健全で安定的な運営のために、早期に達成したい課題です。平成27年度4〜9月の前年同期比事業実績は、収入金額が105%、受注割合では民間50%、一般家庭26%、公共22%、独自事業2%と、全体的にはほぼ横ばいで推移しています。

独自事業のリサイクル自転車事業と子育て支援ルームは、重点事業として、推進しています。草刈りや剪定作業の

ような事業では、就業時の安全確保が重要課題であり、会員の技術向上、安全の徹底に取り組んでいます。

国際化の時代、経験豊富な人材の発掘と活躍の場を作りたいところです。本年5月、G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催では、シルバーとしての貢献を模索中です。長期的視野に立ち、会員および事務局職員の仕事のスキルと責任意識の向上をめざしています。

〈市原市長〉今、地方創生という国家戦略の中で、地方では「まち・ひと・仕事」創生という考えのもとに、地域の活性化が望まれており、特に少子高齢化問題は、避けて通れない大きな課題です。つくば市は、現在のところ他市町村と比べると高齢化率は20%以下ですが、旧筑波地区・荖崎地区では30%を超えており、地域によっては、高齢化が問題になりつつあります。

一方、元気な高齢者の方々の労働力は、地域の活性化に大きく貢献できると期待しています。シルバー人材センターの皆さんには、豊富な経験・知識を活かし、さまざまな仕事を担っていただければと思います。

そして事業に取り組む場合、民間と同じような経営感覚が求められます。

今回、自主事業として、子どももの一時預かり事業を始めたことは素晴らしいことです。これからは、他の預かり事業者と比べ、サービス内容を低下させないこと、最低限の基準はクリアし、安全に運営していただくことが重要です。

さらに、老老介護も問題になるでしょう。介護の人手不足により、高齢者が高齢者を介護する必要に迫られるかもしれません。シルバー人材センター会員の皆さんも、介護のスキルを少しでも身に付けていただければ、つくば市をはじめ、介護事業への参加など、今後は需要が期待できますし、センターの仕事の幅も広がるのではないのでしょうか。

もうひとつ、つくば市には、研究者のOBの方がたくさんいます。語学が堪能などの専門的な知識がある方々に、センターに入会していただくことで、センターの仕事の幅も広がり、他センターとは違った活動もできるのではないでしょうか。

センターの情報をみなさんに広く知っていただくためには、市の広報紙や市ホームページへのリンクなど、市の広報媒体も積極的に活用していただき



市原市長（右）と橋本理事長（中央）、梅田副理事長（左）

い。
地域の活性化の中で、高齢者の方々に元気で地域づくりに参加していただくことが、これからの地方創生のポイントになると思います。つくば市としても、今後もセンターと連携をとりつつ、地方創生に取り組んでまいります。
〈橋本理事長〉 本日は貴重なご意見をいただきました。まことにありがとうございます。地域社会への貢献をめざし、私たちも前向きに進む所存です。

〈新理事長のご挨拶〉

皆様明けましておめでとうございます。急病のため退任いたしました福田前理事長の志を継いで、梅田副理事長はじめ理事・監事のみなさん、岡野事務局長や事務局職員のみなさんと共に当センターの平成27年度重点目標6項目に沿い一歩ずつ進めていく所存です。中でも「意識の向上」は会員並びに事務局職員とも意識改革することが他のすべての目標を達成する礎であると確信しています。「公益社団法人」という制約の多い組織ですが、関係各位のお知恵を拝借しながらこのセンターを魅力ある組織にするべく進めてまいります。先ずは事務局に寛げる場所、会員同士や事務職員とのコミュニケーションの場を設けます。人と人との歓談の中から人は理解し、信頼が生まれるものと思えます。本年も皆様が安全に配慮し、健康で充実した年であるよう心よりお祈り申し上げます。

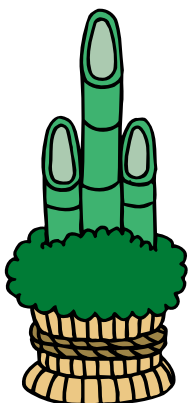
平成28年1月吉日

つくば市シルバー人材センター

理事長 橋本憲明

謹賀新年 公益社団法人 つくば市シルバー 人材センター

理事長	橋本 憲明
副理事長	梅田 三郎
理事	大久保勝弘
理事	金子 和雄
理事	黒澤 弘志
理事	白井 キイ
理事	高野 島子
理事	新田 敬一
理事	福田 征男
理事	皆見 邦子
理事	宮島 利平
理事	山内 衛
監事	細田 市郎
監事	宮本 孝男
事務局長	岡野 好雄
事務局職員一同	



〈企業訪問〉

美味しいパン作りの秘訣は

「石窯（いしがま）」!!

株式会社タカキベーカリー つくば工場

つくば市のイメージは、最先端の研究機関が集中する未来型都市ですが、優れた技術をもつ多くの民間企業が活動しています。今回、「食」を身近なテーマに、おいしいパン作りに定評のある株式会社タカキベーカリーつくば工場を訪問させていただきました。同工場は、つくば市内豊里テクノパークにあり、地元つくば市シルバーセンターの多くの会員を長年就業させていただいているところでもあります。

訪問当日、にこやかな笑顔で出迎えていただいたのが、今西淳工場長。企業の理念から、設立から現在にいたるまでの苦労話などをお伺いしました。同社を含むグループの創業者高木氏が戦後外地から引き上げてまもなく、広島市内でパン作りの店を興したことから、おいしいパン作りにこだわる歴史が始まります。そこには、創業者の広島に対する復興と発展を願う熱い思いがありました。パンの品質の良さに対

する信頼が企業の成長につながり、西日本を中心にいまでは関東にまでパンとパンに関連した食材などの製造、販売で発展を遂げてきました。

平成元年、あの「アンデルセン」「リトルマーメイド」の物流センターとして誕生、平成19年にタカキベーカリーのパン工場としても稼働を始めています。

「おいしいモノをつくろう」を理念に、消費者の方々の食生活に一つでも貢献できるような企業を目指して、ヨーロッパの伝統技術に由来しつつ同社独自の技術による、主力のパン作り「石窯（いしがま）」にこだわり生産している専用工場は、他社も含めて、全



株式会社タカキベーカリーつくば工場

国でこのつくば工場だけとのこと。

ここからは難しい技術的な話になりますが、「石窯」では、他のオーブンと異なり、遠赤外線で焼くために火力が強まり、その影響で水分が程よく中に閉じ込められ、食感が、パンの外はカリッと、中はしつとりとジューシーなおいしいパンができていくそうです。同工場では、すべてのパンが「石窯」製法により焼きあがっています。

工場では、福利厚生の一環として週一回「パンの日」を設けて、従業員にできたてのおいしいパンを食べていただくという、なんとも羨ましい企画を実施中とのことでした。



「石窯」パン



「食と農の科学館」正面



研究成果を展示するメインの展示エリア



いまは地域ごとに新品種の米が開発されています

〈アクセス〉

住 所：茨城県つくば市観音台3-1-1

問合せ：029-838-8980

U R L：http://www.naro.affrc.go.jp/tarh/

開 館：年末年始を除く毎日。

午前9時～午後4時。入場無料。

交 通：

〈JR常磐線〉「牛久駅」、〈TXつくばエクスプレス〉「つくば駅」または「みどり野駅」。

〈常磐自動車道〉「谷田部」ICまたは圏央道「つくば牛久」IC。

〈筑波研究学園都市探訪〉

「食と農の科学館」

「日本の農林水産業の過去・現在・未来を見る」

「食と農の科学館」は、つくば市内の農林団地内の一面にあり、農研機構が運営・管理を行う展示施設です。農林水産業の研究開発がわかりやすく理解できるように、学生や一般向けに設計された全国でもユニークな展示館で、市内の各学校から見学にくる生徒が多く、市民にもおなじみの施設です。施設は、瀟洒な一階建ての展示・資

料館と向かい側にある作物見本園で構成され、作物見本園は初夏～秋が見頃です。展示館は、多数のパネルと展示物を使って、農林水産分野での研究成果や最新の開発技術を紹介し、食糧のみならず環境など多岐にわたる課題にまで取り組んでいる状況が分かります。コメのコーナーでは、開発・実用化されている品種が多数あることを知りましたが、飼料用が増えていたという話は意外でした。

展示館内の「農業技術発達資料館」では、昔からの貴重な農機具が多数展示され、懐かしがる農業従事者が多い



入り口正面のホール。モニュメントや大型ディスプレイがおかれています



農業技術発達資料館では懐かしい農具の展示

ところでもあります。

ここは「無料」で公開されており、団体見学の場合、事前に頼んでおけば、ガイドの方に案内していただけます。館内では、農家や市民のための講座が毎月開かれています。

日本の農業は、TPP（環太平洋経済連携協定）批准、安定供給の確保と自給率の向上、付加価値を高める研究など、活性化に向けての課題は山積ですが、日本の将来のためには手を緩めることができないものばかりです。みなさんにぜひ訪れていただきたい「科学館」としてお勧めいたします。

〈女性たちの集い〉 輪と和のあつまり

平成27年11月14日「第3回きずなぎき夢まつり」に、ポランティア活動の一環として、市内荳崎地区のシルバー女性会員が参加しました。出品したのは、みなさんが集まりを重ね、古い端切れなども利用して、何ヶ月もかけて制作した小物グッズなどの力作です。女性らしい感性とお互いをつなぐ輪（和）を実感させられました。



長年の経験と知恵が役にたちます

「きずなぎき夢まつり」とは、市のバックアップの下、荳崎地区住民の交流を深めるために、毎年秋に荳崎運動公園で地区住民が楽しく集うお祭りです。例年、消防防災フェア、ステージ、体験コーナーなどが場内に設けられ、鉢花の無料プレゼントなど、楽しさがいっぱいイベントです。

この日は、朝からあいにくの雨模様でしたが、小間の前では、顔見知りの女性同士による井戸端会議の輪がたびたびできたのも、微笑ましい光景でした。



小物作り作業で集まったみなさん

〈地域ボランティア〉 「アダプト・ア・パーク」活動

つくば市シルバー人材センターが行っている地域ボランティア活動の一つが、「アダプト・ア・パーク」です。つくば市を六地区に分け、地区ごとで1年に3回、ポイ捨てのジュースの空き缶や紙くずなどを拾い集めたり、樹木の枯れ枝を掃き集めるなどの清掃作業が主です。

作業が終わったところで、お待ちかねの情報交換タイムです。用意したお茶とお菓子をいただきながらのよもやま



当日集まった荖崎地区のみなさん

話は勿論、今どんな仕事についているとか、興味深々、話は尽きません。このお茶タイムが、楽しくまた貴重な仲間との交流となっているのです。



女性会員が清掃活動中

〈草刈り・剪定班がゆく〉 「平成27年度草刈り講習会」

技能も大事だが、安全確保もさらに重要。例年、草刈り作業に従事する会員を対象にして、当シルバーセンターが自主的に行っている「草刈り技能実技」講習会が、平成27年10月27日、つくば市内の公園で行われました。安全

面と技能面の両方を徹底して基本から学ぶというものです。

年々増大する顧客からの仕事依頼に対応するためには、会員自身による仕事の意義の理解と技能の研修が欠かせないし、重要さが増している安全対策の充実も、シルバーの仕事では重要なファクターです。

草刈りや剪定作業は、根強い需要があり、シルバーでも人気のある仕事ですが、一面では危険性を伴う重労働と言えます。その点では、このような講習会は時宜を得たものと言えるでしょう。



ベテラン指導員たちが見守る中で、実技中の受講者

〈筑波の郷〉 お地蔵さんとヒョウタン

つくば市は、最先端研究機関が集中する、研究学園都市と言われますが、郊外には自然豊かな田園風景の「郷」が展開するところでもあります。その「郷」での風景二葉。地元の人たちが昔からお守りをしている古い祠の境内に佇むお地蔵さんと、林の中で見かけたヒョウタン。ヒョウタンは、世界に数多くの種類と形態が存在し、あのユーモラスな姿とともに、一万年以上も人間との関わりがある、世界最古の栽培植物の一つです。起源は、諸説あるもアフリカ説が主流で、水入れやなどにいまでも広く利用されているそうです。



◆きずな原稿募集

「きずな」の原稿を随時募集しています。就業先での出来事や体験談、身近な出来事等々、お待ちしています。些少ではありますが、執筆謝礼をご用意いたします。

ご案内

平成27年度末の入会説明会および面接は次の通りで行います。入会をご希望の方は、直接説明会会場へお越しください。お問い合わせは、電話で受け付けております。

*電話…

029-1879

15199

*HP…

[http://www.](http://www.tsukuba-sc.com)

[tsukuba-sc.com](http://www.tsukuba-sc.com)

〈事務局からのお知らせ〉

平成27年度理事長に就任した福田征男氏が、病気のために長期療養を余儀なくされ、平成27年10月22日の臨時理事会にて、橋本憲明氏が新理事長、梅田三郎氏が副理事長として選ばれました。ここに報告申し上げます。

編集後記

昨年より広報誌「きずな」は、会員向けの内容から、情報を広く一般の人や、企業をも意識して、シルバー人材センターの活動を広くPRしていこうとのことで取り組み、それを誌面に反映してきました。いろいろと課題もありましたが、今後ともさらに内容を充実させたいと考えています。ところで開封後のパンの保存は、なぜ冷凍庫なのか！：冷蔵室の温度帯ではパンの品質を傷めてしまうとのこと。今回取材先の工場長から教えていただきました。本年も引き続き本誌のご愛読をお願い申し上げます。(菊田)

表紙の主役は、シルバーセンターの女性たちと、ランタンアート2015で活躍した市内の小中学生たちでした。折り紙の猿は、今年の干支にちなみ、ボランティア活動で折り紙を教えている女性の作品「みざる、きかざる、いわざる」をアップしました。(山内)